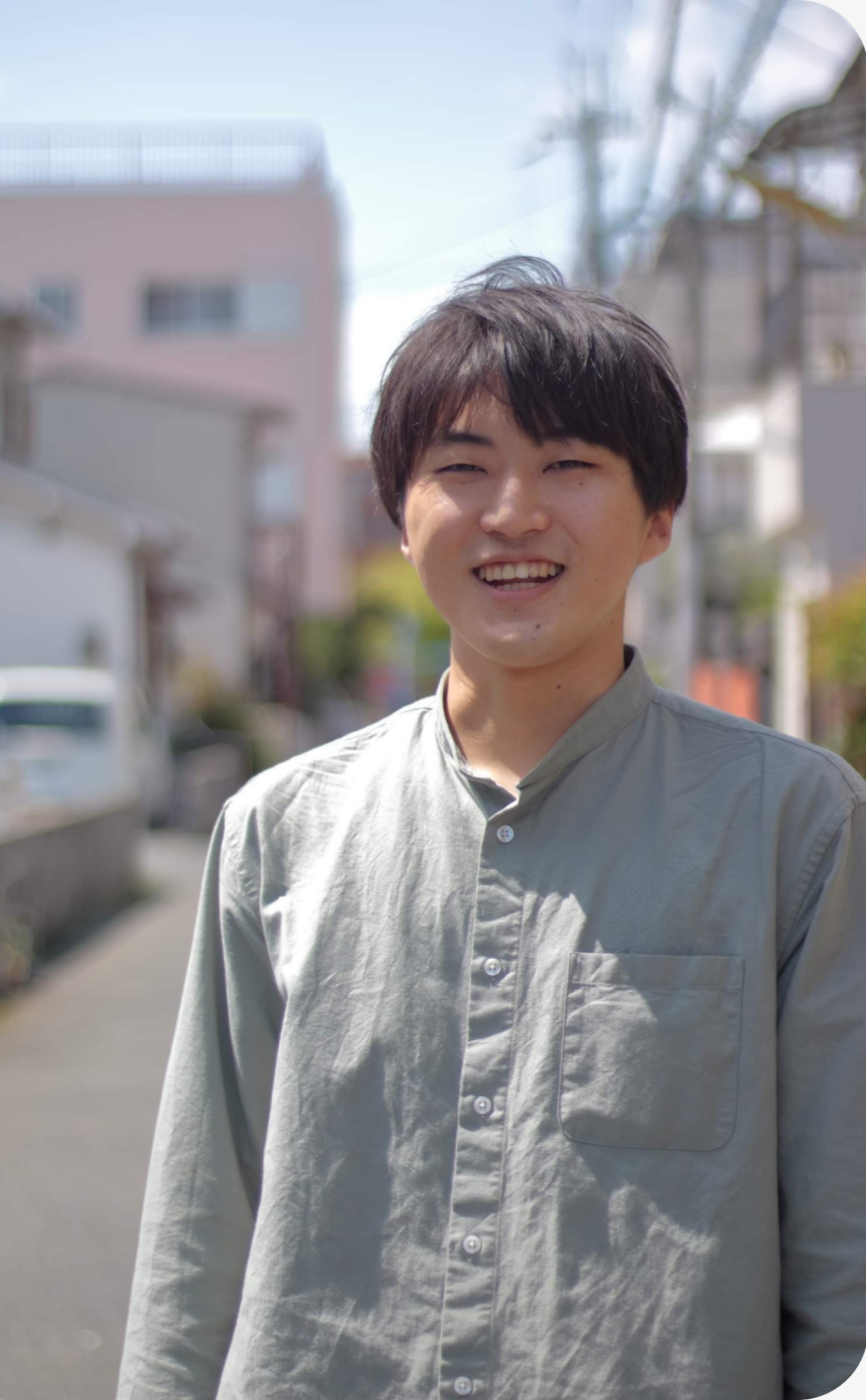




こども・若者が、大人や社会と、 対等に意見を言い合える社会へ

尼崎市ユースカウンスル事業Up to You!
第1期代表 原田伊織



原田 伊織（はらだいおり）

<プロフィール>

2003年、兵庫県伊丹市生まれ。

2歳で母子家庭になり、5人家族で生活保護を受けながら暮らす。

尼崎市の高校に在学中、Up to You! 0期に参画。個人プロジェクトでヤングケアラー問題に取り組む中、自身がヤングケアラー当事者だったことに気づき、当事者活動を開始。

2022年、Up to You! 1期で代表を務める。

2023年、全国ユースカウンスル交流会を有志で企画し、全国規模のユースカウンスルプラットフォームの準備会を立ち上げる。

<その他の活動>

介護福祉士・防災士

NPO法人ASK(Amagasaki Skateboard Kindness) 理事

大阪人間科学大学社会福祉学科 3年



■兵庫県尼崎市

451,205人（220,946世帯）

50.72平方km ※2020年12月1日現在
→人口密度は県1番（全国で45番）

■子ども・青少年への尼崎市の取組

2019年 ユースセンター設置

ユースワーカー配置

2021年 子どもの育ち支援条例改正

（子どもの権利条約や子どもの権利について明記）

2021年 こども権利擁護委員会設置

2021年 ユースカウンスिल設立

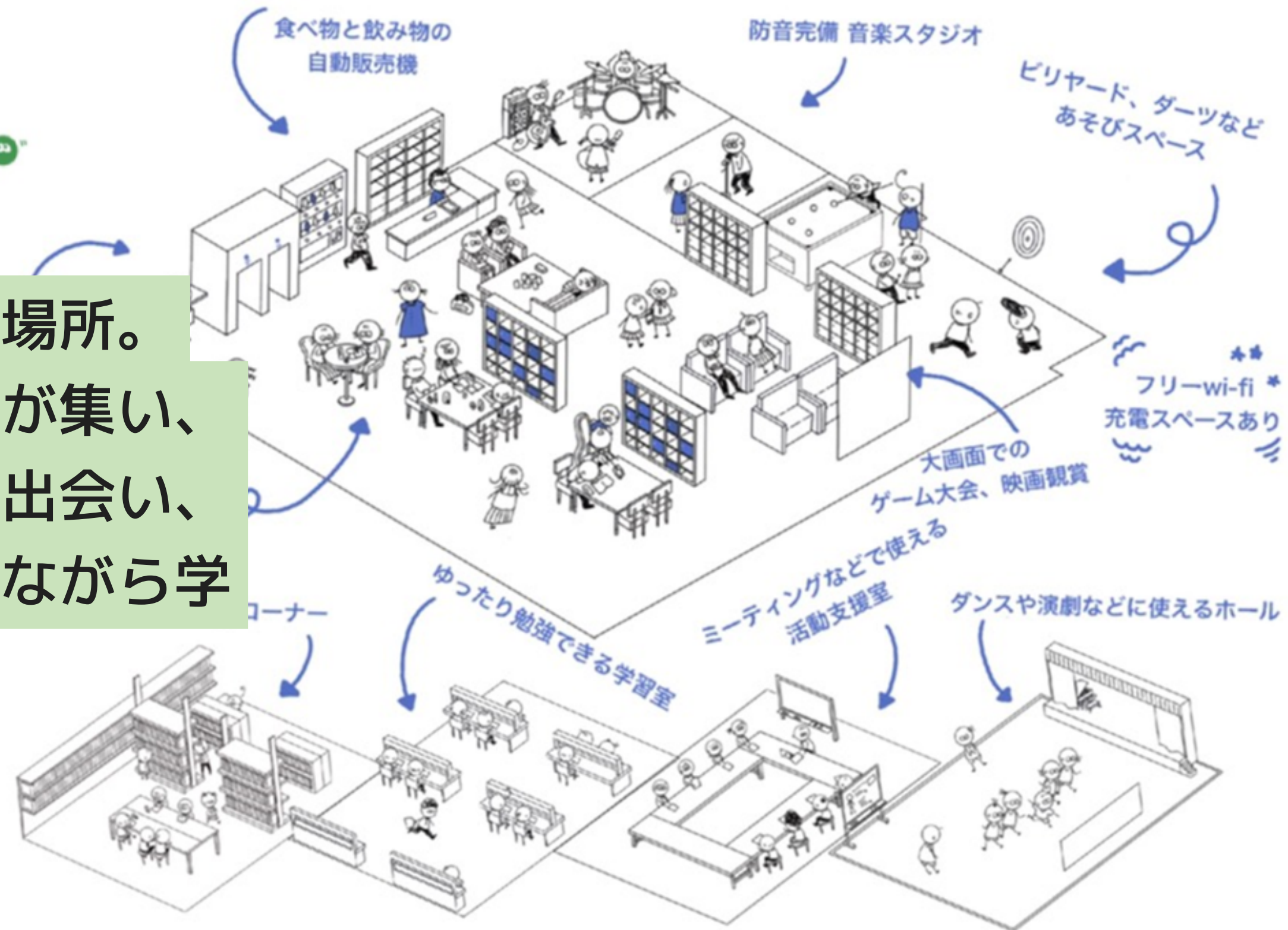
2023年 ユースファンド設置

青少年協議会に若者委員設置

尼崎市立ユース交流センター

やりだいをやるう。

“ユースセンター”とは、学校でも家でもない、若者の居場所。放課後や休日などの時間に若者が集い、ロールモデルとなる様々な人と出会い、いろいろなことにチャレンジしながら学ぶことができる場所。



お伝えしたいこと

- ① 施策等への意見反映手段「ユースカウンシル」
- ② 日常的な意見反映機会確保の重要性

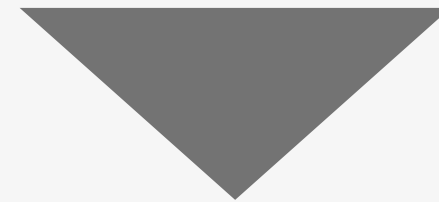


ユースカウンシルとは？

そのまちに住む若者達の声を集め、
若者をエンパワメントし、
まちを変えるための協議体。



（日本語では、「若者会議」「若者議会」「若者協議会」）



**若者が自分たちで
自分たちのまちをつくれる仕組み**

意見表明機会の重要性

■こどもの権利条約で示された意見表明

こどもの権利条約第12条では、意見を表す権利として、こどもは自分に関係のあることについて自由に意見を言える権利を持っています。

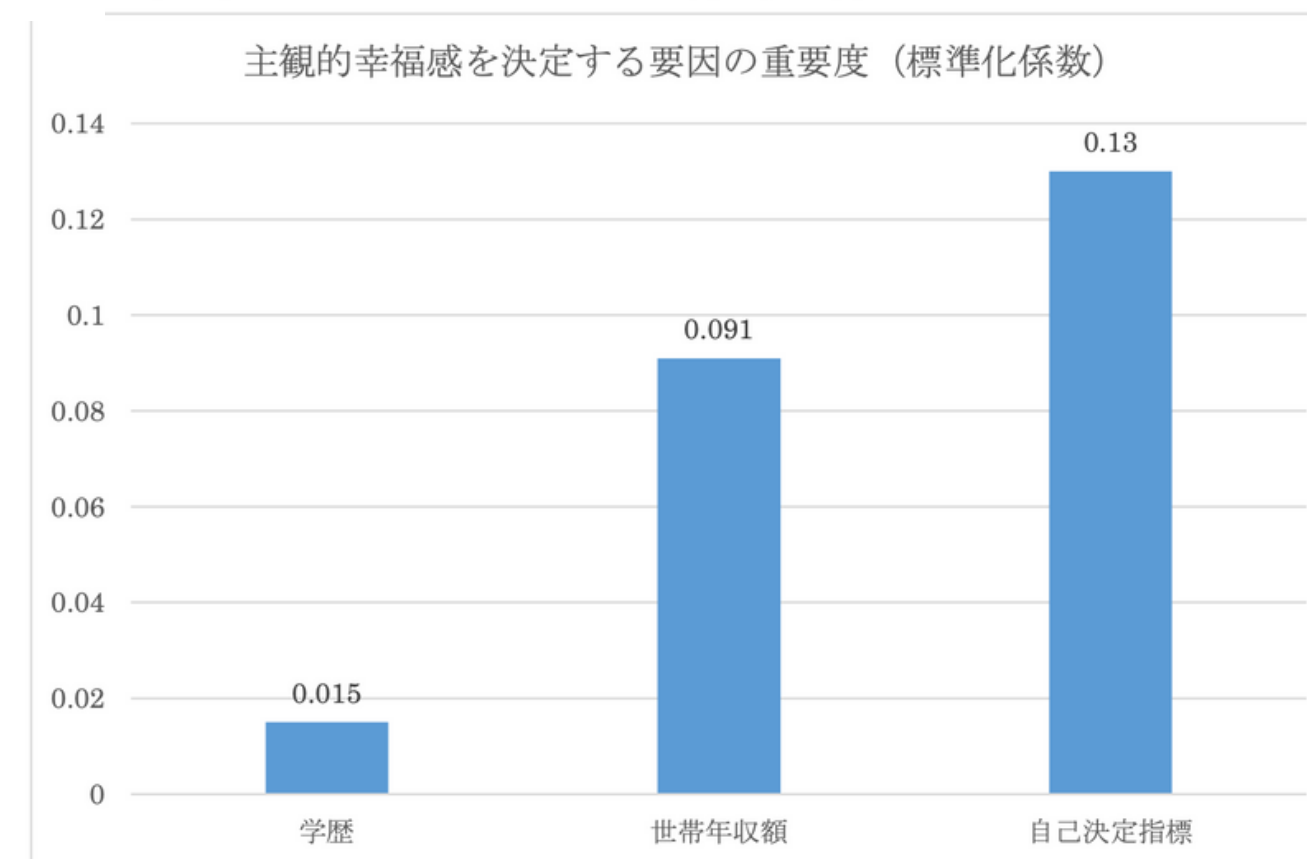
■意見を表明し、自己決定していくことは幸福感にも影響する。

人生における主観的幸福感の要素としては、健康や人間関係に次ぎ、自己決定の機会も影響している。意見表明・反映、自己決定は施策や環境の改善だけでなく、国民全体の幸福感の向上にもつながる。

■表明した意見を、大人や社会が何らかの形で反映する＝意見反映

意見反映とは、こども・若者が表明した意見（声、動静、文章など）に大人や社会が何らかの形で反映することだと思う。施策や場所の運営への改善や、日々の話したことに相槌を返すことなど意見反映には様々な機会がある。

図1 主観的幸福感を決定する要因の重要度（標準化係数）



注：学歴は説明変数として統計的に有意ではない。

図1：西村和雄,八木匡. 幸福感と自己決定—日本における実証研究. 独立行政法人経済産業研究所, 2018.



現在の「意見反映機会」

まちづくり
ワークショップ

チャット

オンライン

審議会等への参画

フォーラム

Webアンケート

こども議会・若者議会

こどもの居場所・施設等でのヒアリング

**様々な参画の機会があるが、
日常的な意見反映機会が少ない。**



言えないよ



こども・若者は日々ゆれうごく

■ライフステージでは大人への移行期（縦方向）であると同時に、日々の中でも状態は移行している（横方向）

日々の中での変化、例えば、あまり何もしたくなかった1日を過ごしたいときもあれば、ボランティアや社会参画に力を入れられる日など、こども・若者は日常の中でも様々な状態を移行している。

■意見反映機会が一部のステージに限られてはいけない

現在の意見反映の機会は、とりわけ意見を言える状態（健康、環境状態など）にあるこども・若者が対象になってしまっている。

■日常的にこども・若者の意見形成支援を行い、表明の伴走、反映のフィードバックができる存在が必要。

多様な職種や、居場所がこうした存在になり得るが、私の場合にはユースセンター・ユースワーカーその支え手になった。どんな状態のこどもも意見反映の機会がある状態が必要がある。



若者の価値観をさがす

■日本の若者の関心

学校内外に関わらず、公的なものより私的なものへの関心が高い。

高校生の95%が意見表明は良いことと答えるように社会参加欲求は高まっている。

■若者の意識に近いところでの意見反映機会が必要

関心と離れた場面の意見反映機会に限られることは、若者の「沈黙」「諦めの感情」を生んでしまう可能性がある。若者の意識と近いところでコミュニケーションが成立することこそが社会参加の効力感を生み出す。

■非日常の意見反映機会では、若者は大人や社会の求めるものに主体的に従う。

若者は先生や大人に迎合する「忖度」することが良しとされる空気の中で、自分たちの身を守るために、そうした空気に主体的に従ってしまう。

非日常の機会ではそうした空気を強く感じる。

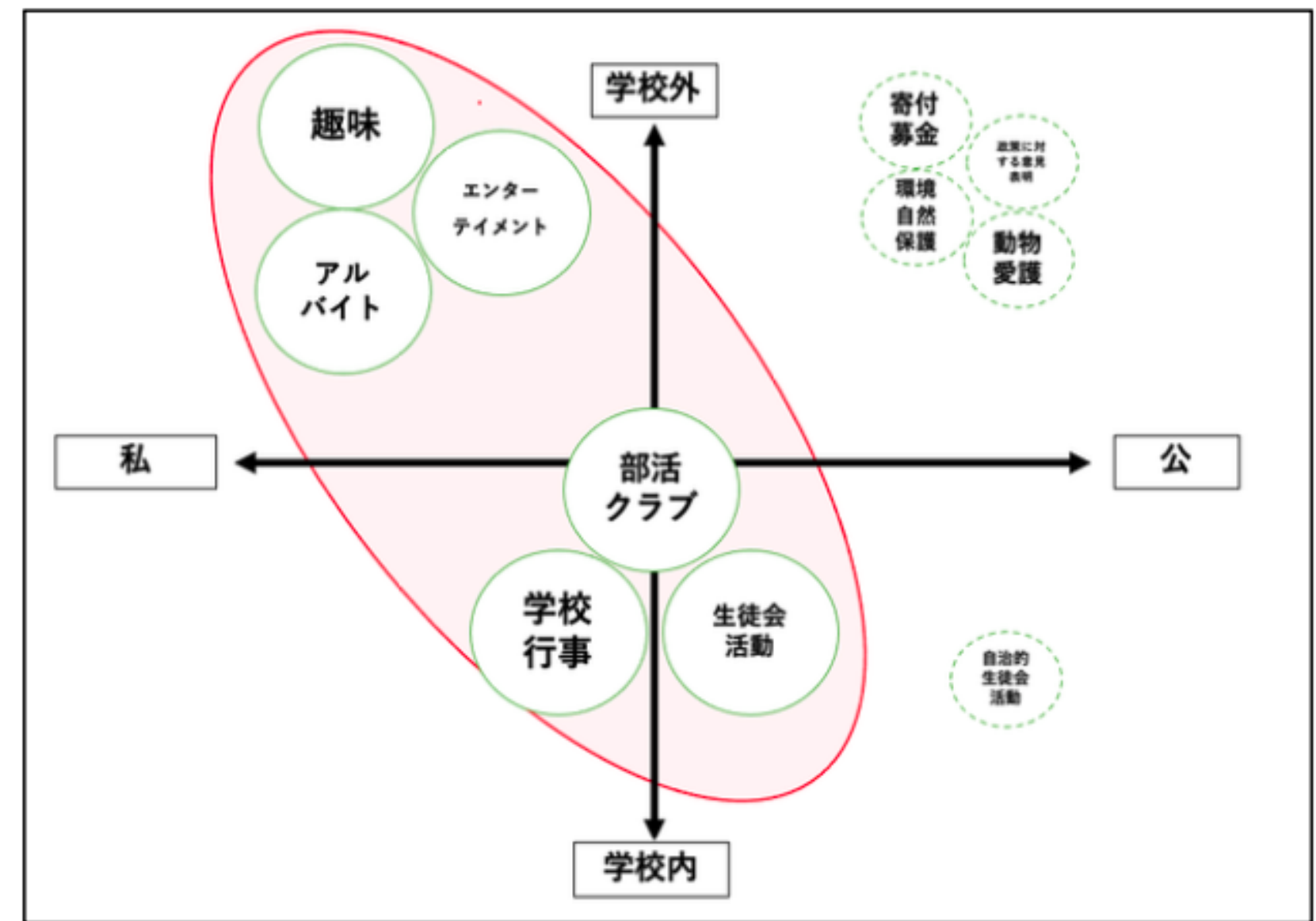


図 1:日本の若者の社会参加に関する意識の傾向



こども・若者は 本音の意見を言えないよ

若者を飼いならしの域を超えた意見反映



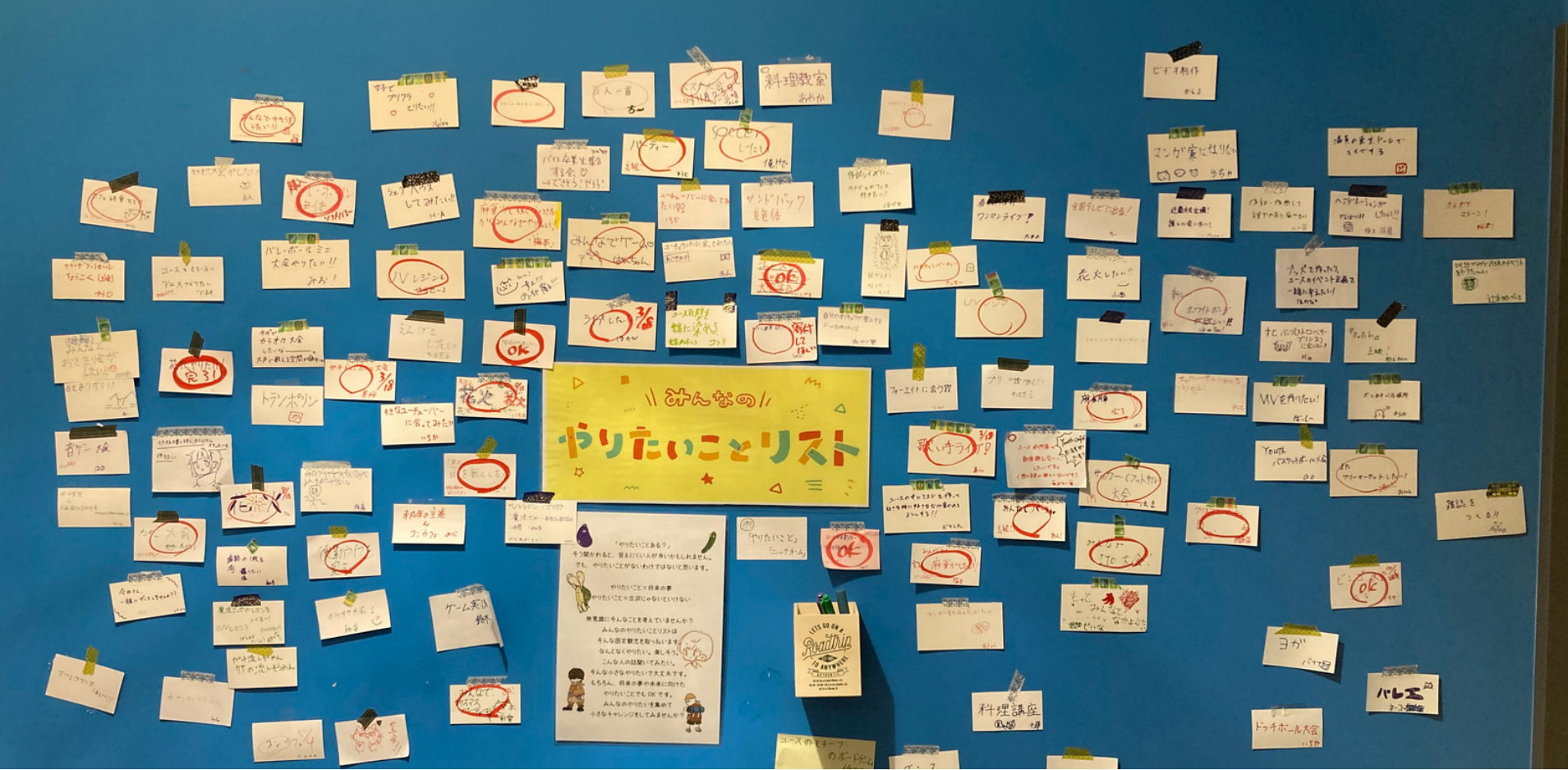
日常的な意見反映の機会の確保（例）

すでに若者が日常的な場所として利用している施設等で、意見反映の機会を創出することができるが良い。

尼崎市のユースセンターでは、

誰でもかける「やりたいことリスト」を設けている。

1人で書く人もいれば職員と相談しながら書く人もいる。大切なのは「ここに書いたら反映される」と若者も大人も共通認識を持っていること。



こども・若者がどんな状態でも意見が反映される機会が必要。

ユースセンターやユースワーカー、ユースワークの概念を持った大人が日常的に関わり、非日常の機会へと伴走することで多様な状態の若者も参画・意見反映ができる。場所、人材を配置すれば良いのではなく、実際に意見を言ってもいいと思える空気を作ることが重要



まとめ

- 意見反映の方法「ユースカウンスル」
 - 「私」からはじまる活動の増加が若者の影響力を高める。
 - 地域によって活動形態は多様化している。
 - 「若者が活動の主体になっているか」を大人や社会も見守る。
- 日常的に意見反映機会が確保されていることが重要
 - 意見が反映される機会が非日常の体験になると反映される意見は限定的。
 - すでに日常的な場所でこそ、意見反映の機会をつくる必要がある。
 - ユースセンターや、ユースワーカー、ユースワーク的な関わりがポイント。



参考資料

- ① ユースワークとは
- ② ユースカウンシルとは
- ③ Up to You! 第1期活動の様子
- ④ 個人プロジェクトの一部紹介



若者の成長と幸福を共創するための取り組み

- ・ 成長

多様な体験から、自身で考え学ぶこと。

- ・ 幸福

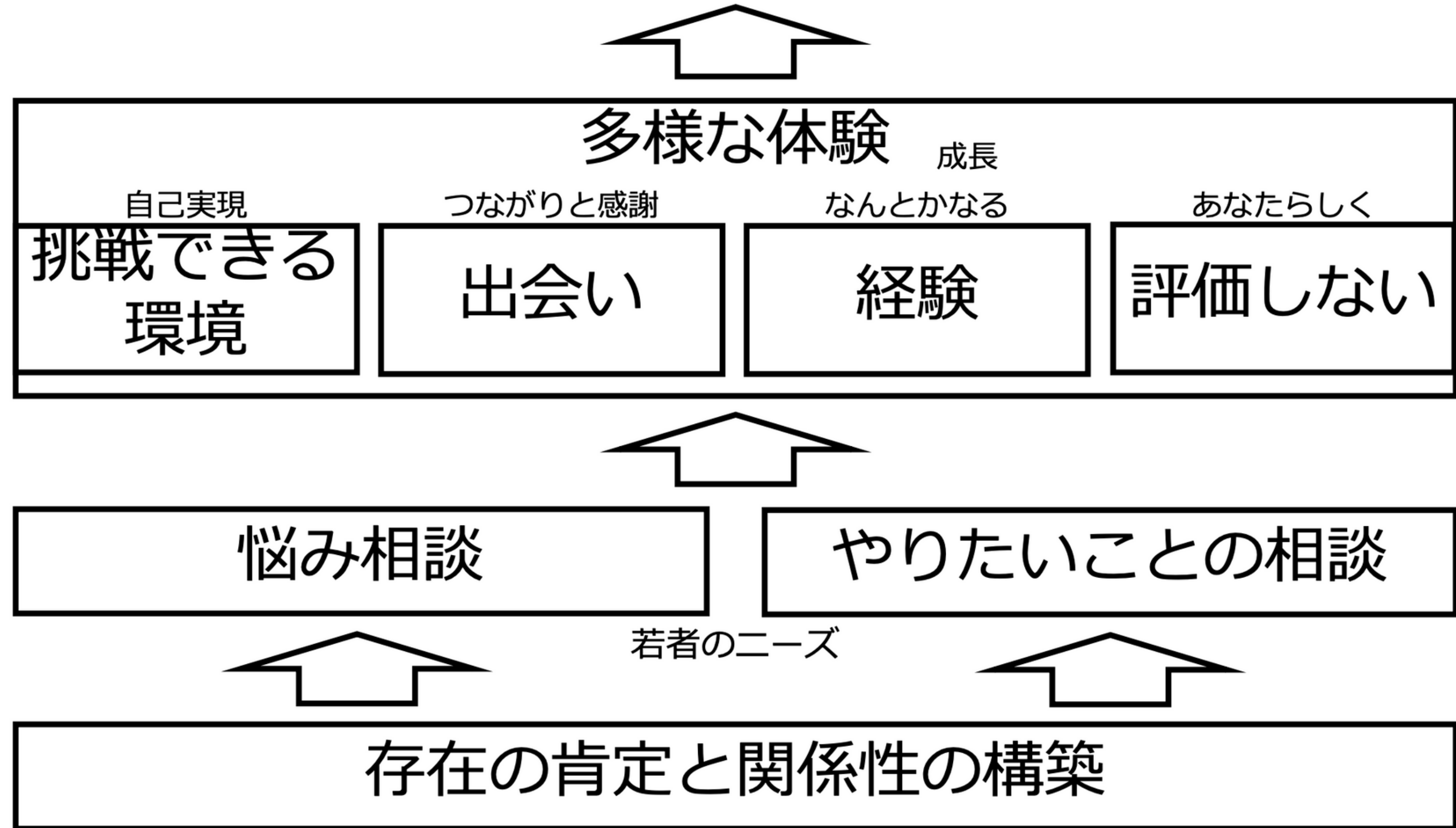
自己実現

つながりと感謝

なんとかなる

あなたらしく

若者の成長と幸福を共創する



居場所

主体性

居場所期

居場所として利用。他者との交流を図らず、1人や既存の友人とのみで利用

交流期

スタッフや利用者同士の交流を行う。自己理解（カウンセリング）の期間

自己肯定期

自身の声が受け入れられたり、必要とされたりする経験を持ち、自己肯定感を獲得する。

興味発見期

多様な価値観に触れ、自身の興味関心を知る。やりたいことを見つけられる。（社会との接点を知る）

自己実現期

やりたいことを実現する。スタッフが伴走し、PDCAサイクルを繰り返す。
※次第にスタッフの伴走なしで行動する。

他者貢献期

友達や誰かのために行動する。社会参画やまちづくりに関わる。

利用者は、その日の体調や気分で自身の立ち位置を決めるため、常にその場所にいるわけではない。

若者のマインドジャーニー

自分に自信がない
やりたいことをやりたいと言えない

存在を肯定された
自分の話を聞いてもらえた

こんな自分でも人の役に立てた
褒められて嬉しい

やりたいことを考えられた
人に言ってもいいと思えた

やりたいことができた
自分のために動いてくれる人がいた

誰かのために頑張りたい
人の役に立ちたい

安全欲求

社会的欲求

承認欲求

自己実現欲求

※貢献欲求

(資料提供：ユース交流センター職員、今井直人)

参考資料① ユースワークと若者の段階

居場所

主体性



居場所期

居場所として利用。他者との交流を図らず、1人や既存の友人とのみで利用

交流期

スタッフや利用者同士の交流を行う

自己肯定期

自身の声が受け入れられたり、

興味発見期

多様な価値観に触れ、自身の興味関心を知る。

自己実現期

やりたいことを実現する。スタッフが伴走し、

他者貢献期

友達や誰かのために行動する。社会参画やまちづくりに関わる。



その場所にいるわけではない。

まちづくり提案箱に投書
みんなで話せた。声を聞いてもらえた。
ただスケボーがしたいだけ。

スケボーパークを作ろう！
任意団体ASK設立
体験会開催

子どもたちが
スケボーできるように！
NPO法人設立

安全欲求

社会的欲求

承認欲求

自己実現欲求

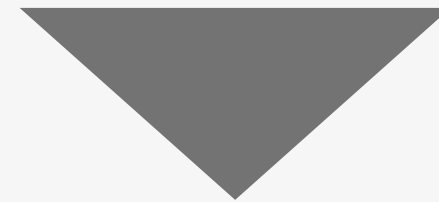
※貢献欲求

ユースカウンスルとは？

そのまちに住む若者達の声を集め、
若者をエンパワメントし、
まちを変えるための協議体。



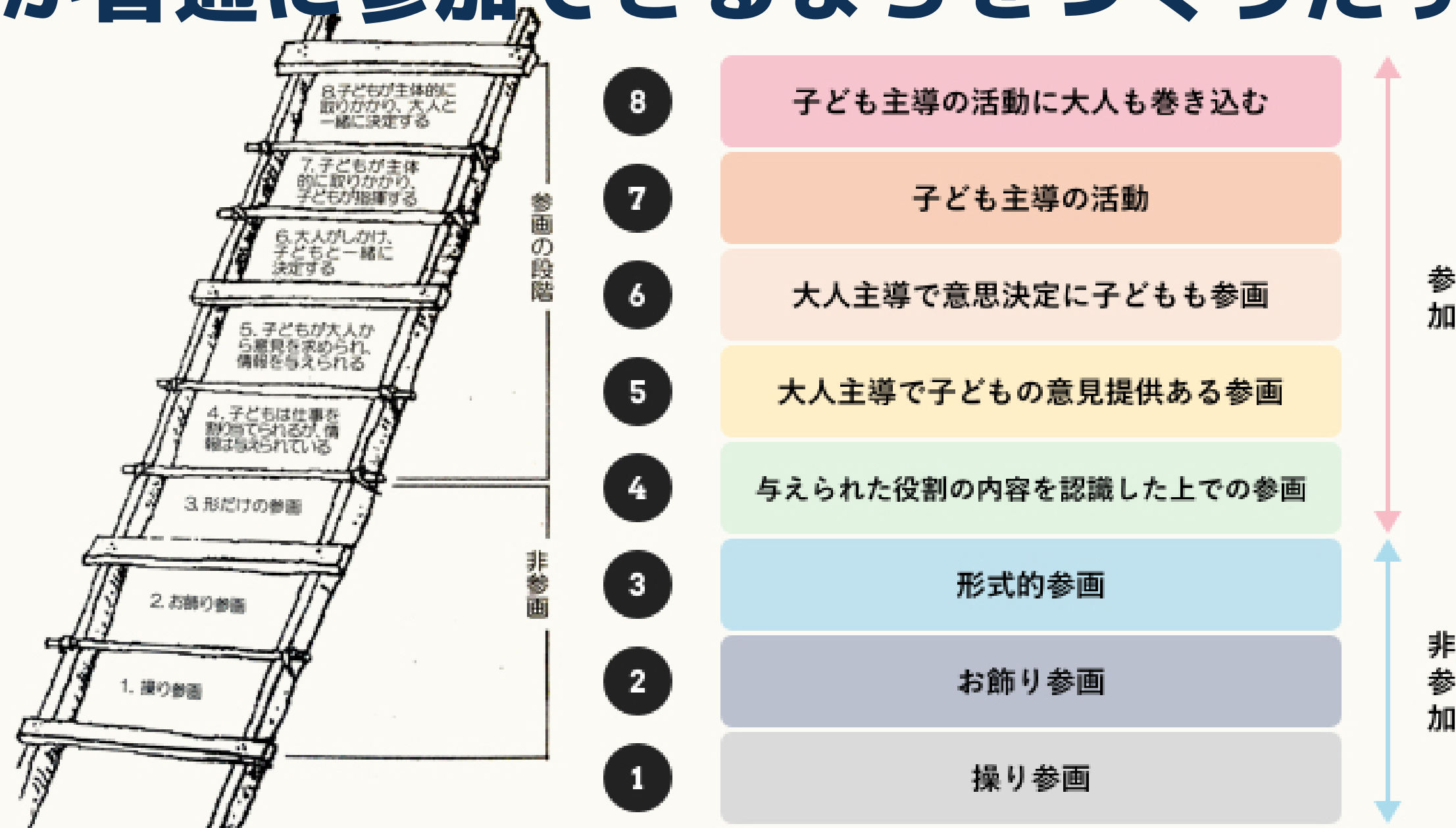
(日本語では、「若者会議」「若者議会」「若者協議会」)



**若者が自分たちで
自分たちのまちをつくれる仕組み**

ユースカウンスシルとは？

**若者がまちづくりに参加することではなく、
若者が普通に参加できるまちをつくりだすこと。**



「子どもの参画」(ロジャー・ハート、萌文社、2000) から

ユースカウンスルとは？

Figure 3. Sun Model of Co-Agency

The light is brightest when we shine together

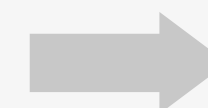


Source: OECD Future of Education and Skills 2030 Student Focus Group.

2018年OECDのプロジェクトで参加した学生らがはしごモデルをもとに共同エージェンシーの太陽モデルを創出。

- ・ 直線から円状になる。
- ・ 新たに「沈黙」を意味する0段階目が追加された。

沈黙の状況とは、若者も大人も「若者が貢献できる」と信じていない。大人がすべての活動・意思決定を主導。その結果、若者は沈黙を保つ。



こども・若者が活動の主体になるには大人や社会の意識の変化も重要である。

ユースカウンスシルの特徴

- 運営をするのも若者。
- 参加する一部の若者ではなく、**すべての若者の声**を集める。
- 影響力を持つために、意見を伝えるだけでなく、**自分たちで行動も起こす**。
- そして、それは真面目なことに限らない

Up to You! とは



尼崎市のユースカウンシル事業。



サポートはユースセンターの職員が行う。



それぞれが役割と個人プロジェクトを持っている。



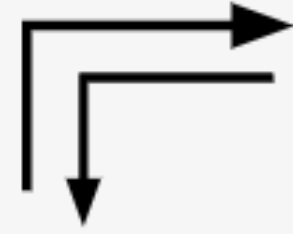
ビジョンに向かって行動するチーム。

Vision

「若者がきがねなく社会に参画できるまち」

Up to You! の特徴

- ・若者の声を代弁
- ・行政職員との調整



ユース交流センター

- ・日常の相談
- ・資源の提供を依頼



行政：尼崎市

- ・活動報告
- ・政策提言



- ・具体的な協働策
- ・財政的支援



Up to You!

■ さまざまな若者が参加している。
(年齢は14歳～29歳まで)

■ 一人ひとり個人の悩みから
課題として取り組んでいる。
「公共は常に私発」

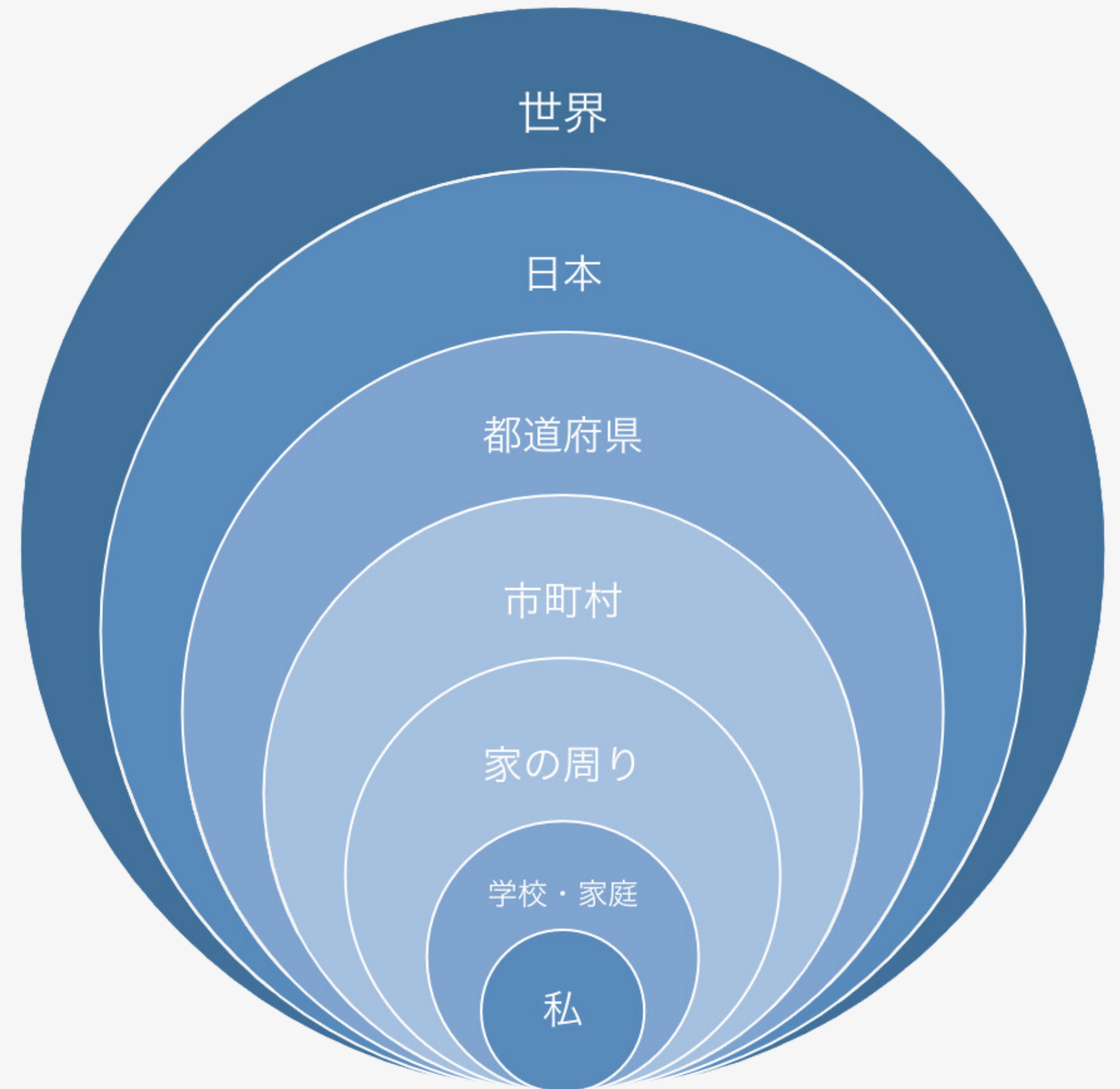


■ Up to You! 参画メンバーの活動

公共は常に 「私」発！

この距離をどのように
つなげられるのか。
まずは私に近いところから。

**自分たちの環境は
自分たちで変えていける！**



全国ユースカウンスシル交流会

有志の若者メンバーで企画、これまでに3回実施。
全国から計11団体、延べ35人以上が参加。
ともに考え、それぞれの地域で実践することを目指している。

- ・ 交流会で分かったこと
- 各地にある若者議会等は地域の特色や、
運営団体によって活動形態にちがいがあ

**若者議会は画一的な組織体に限らず、地域に合った形を
その地域の若者発でつくっていくことが重要である。**



第3回交流会の様子

若者会議の特徴 (例)

フォーマル ⇄ インフォーマル
 政策提言中心 ⇄ 地域活動中心
 大人主導 ⇄ 若者主導



現在の交流会参加団体
計11団体



2022年4月

UptoYou!1期

♥ +

- ・ 2022年4月~2023年3月
- ・ 中学生3人
- ・ 高校生7人
- ・ 大学生5人



2022年5月

Up to You! の活動に
市民・若者から意見
を集める。

「若者の活動」を
市民はどう捉えて
るのかを調査。

集めた意見を基に、
活動の方向性を話し
合う。



5/8 サスアド！



5/14 ゆるえん祭



2022年7月



ワカモノ モギフェス

- ・ 7/10、参院選当日に、ショッピングモールで開催。
- ・ デンマークの選挙風景を参考に、若者の発案で企画実施。
- ・ 模擬投票ブースは以外は、お楽しみブースで祭りの雰囲気！



2022年8月

活動報告と スピンオフ会

活動報告会のテーマ

- ・ 校則問題
- ・ 学校外部活の
仕組みづくり
- ・ ポイ捨てする人を
なくす
- ・ 児童虐待 など



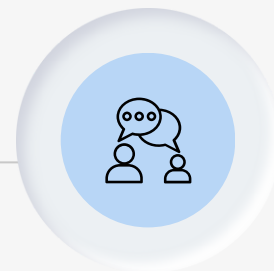
ヤングケアラーに関する提言の様子 ✓



地域の人に向けた報告会も実施 ✓

個人プロジェクト

1年間の流れ



Dialogue

1月～3月

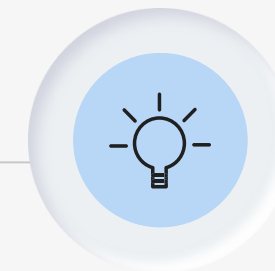
自分に取り組むテーマを決めるためにメンバーや自分と対話します。



Deepen + α

4月～7月

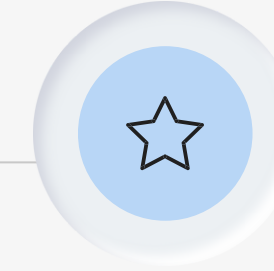
取り組むテーマが決まれば、さらに深めていきます。



Presentation

8月

行政に向けてプレゼンを行います。それぞれの行動の結果が伴う提案です。



Action

9月～

プレゼン以降も活動を継続します。市や地域と協力しながら課題解決に向けて行動します。

孤食：中高生食堂



個人プロジェクト紹介① 高校3年生

背景

小学生の頃一人で夜ご飯食べていることが多く寂しい思いを過ごしていました。色々な人の話を聞いて小学生にはご飯食べれる場所があるが中高生にはご飯を食べれる居場所がないことに気づきました、ユースセンターで孤食の人がいて解決したいと思い始めました。

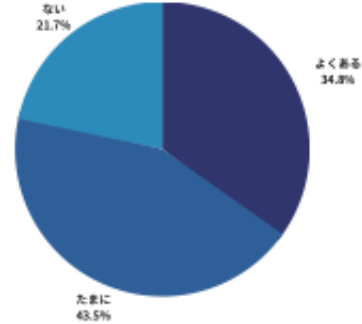
やってきたこと

・アンデパンダン視察

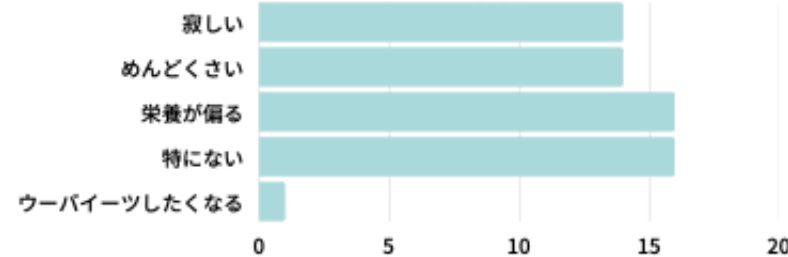


・アンケート

1人でご飯を食べますか？



1人で食べているとき困っていること



・ヒアリング

子ども食堂取り入れた・・・孤食をやるなら同世代向けにやった方がいい理解もしやすいし、アピールしやすい

スクールソーシャルワーカー・・・小学生の孤食ピンポイントでを探しアプローチするのは難しい。

箕面北芝・・・無料が必ずしもいいわけではない。大人になってから罪悪感が抱くかもしれない

子供青少年課・・・中学生になったら子ども食堂に行かない。子ども食堂の中に中学生はいない

現状と理想とその効果

現状

ユース交流センターで中高生にアンケートをしたところかなりの人が孤食の状態『寂しい』『めんどくさい』という回答がありました。また、アンケートでは「みんなで食べれる場所があったら行くか」と言うしつもんに対し「行く」と回答した人がほとんどだった。アンケートの結果より、みんなで食べたい、食べる場所があったらいいというニーズはあるにも関わらずその場所がなくて結果孤食が欠食に繋がっている中高生が多くいる。

理想

尼崎市内の中高生が楽しくご飯を食べれるような場所。

遊びの延長戦で気軽に食べれる場所。

週一でみんなでご飯食べれる会みたいなの習慣イベントとして扱う。

色々な人とコミュニケーションをとりたくさん関係性が生まれてくる場所。

一緒に料理することによりコミュニケーションを増やす。

効果

共食をすることで孤食による欠食者を減らすとともに、コミュニケーションで中高生のストレス軽減、心への負担が軽減される事が期待される。

ヤングケアラーとは

「ケアを要する家族がいるために、家族のケア（家事、介護、子どもの世話、通訳、感情的サポート等）を行ってる子どもたち」
引用元：ふうせんの会HP

こども・若者がケアと自分のやりたいことを選択できる状態が理想だと思い活動してます。
支援と当事者の間に大学生がたち、ニーズに応じてさまざまな活動につなげる学生団体Support For Youth(SFY)を設立しました。



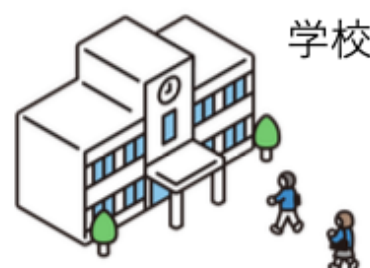
STEP 1

世帯レベルでの把握 子どもとのつながり

行政の把握件数を増やし、危険な状態にあるケアラーをサポートする。
学校や各機関では日常の関わりから当事者が声を出しやすい環境を作る



子どもとのつながりを育む。
ヤングケアラーの可能性のある子ども・若者を把握する。
Ex)講演会、学習ボランティア、日常の関わり、診察や訪問



STEP 2

大人へ向けた情報発信 支援団体へのつながり

当事者と支援をつなぐ人・機関を中心に、ケアラーを起点とした支援ネットワークを形成する。



行政はリストをもとに、世帯の状況から必要と思われる支援情報の発信



・学習サポート

- 家庭での支援
- 放課後教室
- 学校同行サポート

・ケアサポート

- 行政サービス紹介
- 放課後付き添いケア
- 家庭訪問

・レスパイトサポート

- 当事者会の紹介
- イベントの開催
- ボランティア等活動機会の提供



STEP 3

個々に応じたサポート 生涯切れ目のない支援体制

- ・ 尼崎市ヤングケアラーピアサポート事業
- ・ 尼崎市立ユース交流センター
- ・ 地域の各生涯学習プラザ
- ・ 学生団体SFY (Support For Youth)
- ・ 全国のオンラインプログラム
ex)ふうせんの会、かるがもetc.

提案したい今後の流れ

STEP 1

STEP 2

STEP 3

行政

把握対象の範囲を決める

対象世帯のリストを作成する

対象世帯へ向けた情報発信

相談対応/支援展開

各機関

対象範囲の世帯を把握

行政と連携し、対象世帯をサポート・ニーズの抽出

支援展開

SFY

取り組み相談

学生スタッフの募集

取り組み準備

個別サポート事業の展開

メイクによるきっかけ作り

個人プロジェクト紹介③ 高校3年生

<活動の経緯>



中学生のころ、病気を患い自分に自信がなく苦しい思いをしていました。高校に進学するタイミングで感染拡大によるステイホーム期間に入った時にメイクに出会い、変わるきっかけを掴みました。地域のイベントで知り合った方が、自分の好きなことで社会貢献をされていて、自分も何かしたいと思い、中学生向けにメイクできっかけ作りをしたいと考えました。

<現状①>



若者の自己肯定感の低さ

日本財団の18歳意識調査（2022年）によると、6か国の中で最も自己肯定感が低い結果となった。また、「日々の生活で不安や憂鬱を感じる」という項目では、65%を超える人が“はい”と答えた。

<現状②>



多様性や個性を否定される（私が中学生のころ、悩み相談をした際の周りの反応）

親：それは勘違いだ。 先生：考え方を変えろ。
その後、病院に行くと病気と診断された。→否定されたことが辛かった。

<これまでの活動>



尼崎市の補助金を活用し、「自分に自信がなく、好きになれない中学生にメイクで変わるきっかけを届けるため」に、あまらぶチャレンジ事業ジュニアコースに応募。採択された。

<今後の活動>



イベント実施：中学生向けにメイクやヘアアレンジ、スキンケアのイベントを開催。

継続的な連絡：イベント参加中学生とLINEオープンチャット等で継続的に連絡を取り、情報を届ける。

日常的なケア：尼崎市立ユース交流センターなど、イベント以外でも日常的に支えられる居場所を紹介する。

<理想の状態>



- ・新たな人や自分との出会い。→考え方が広がる。
- ・メイクで自分の変化に気付く。→変われるんだと思ってもらう。
- ・自分への捉え方を変える。→少しでも自分の事を撫でられるようになる。

ブカツメーカー

個人プロジェクト紹介④ 大学1年生

きっかけ



私は高校時代、習い事や進学のためのバイトでやりたい部活ができませんでした。でも、尼崎の地域でやりたいことや好きなことができる場所に出会えたことで、楽しい高校生活を送ることができました。

学校だけではない場所で、中高生のやりたいを実現できる仕組みを作りたいと思い、活動をスタートさせました。

中高生の声



- ・ 毎日活動がある部活には、習い事やバイトと両立できない。
- ・ 学校に行きづらい人は、部活のような体験ができない。
- ・ 部員が少ない部活は、学校で認められず活動できない。
- ・ 部活に必要な備品を買い揃えるお金がない。

これまでの活動



見えてきた課題



- ①サークル活動の立ち上げ
カタン部・麻雀部・演劇部等を立ち上げ活動を実施。
- ②市内公共施設や尼崎市の状況を調査
中高生が活動できる環境の整備状況を調査。

- ①活動できる仕組みがない
尼崎市内のサークル活動はママさんバレーや大人限定の写真サークルしかなく、若者が参加しやすい環境が整っていない。
- ②活動できる場所がない
尼崎市立ユース交流センターは若者無料だが、球技ができないことや園田地区以外からのアクセスが悪いなどの問題があり、他の施設の利用料は、中高生のお小遣いでは高い…



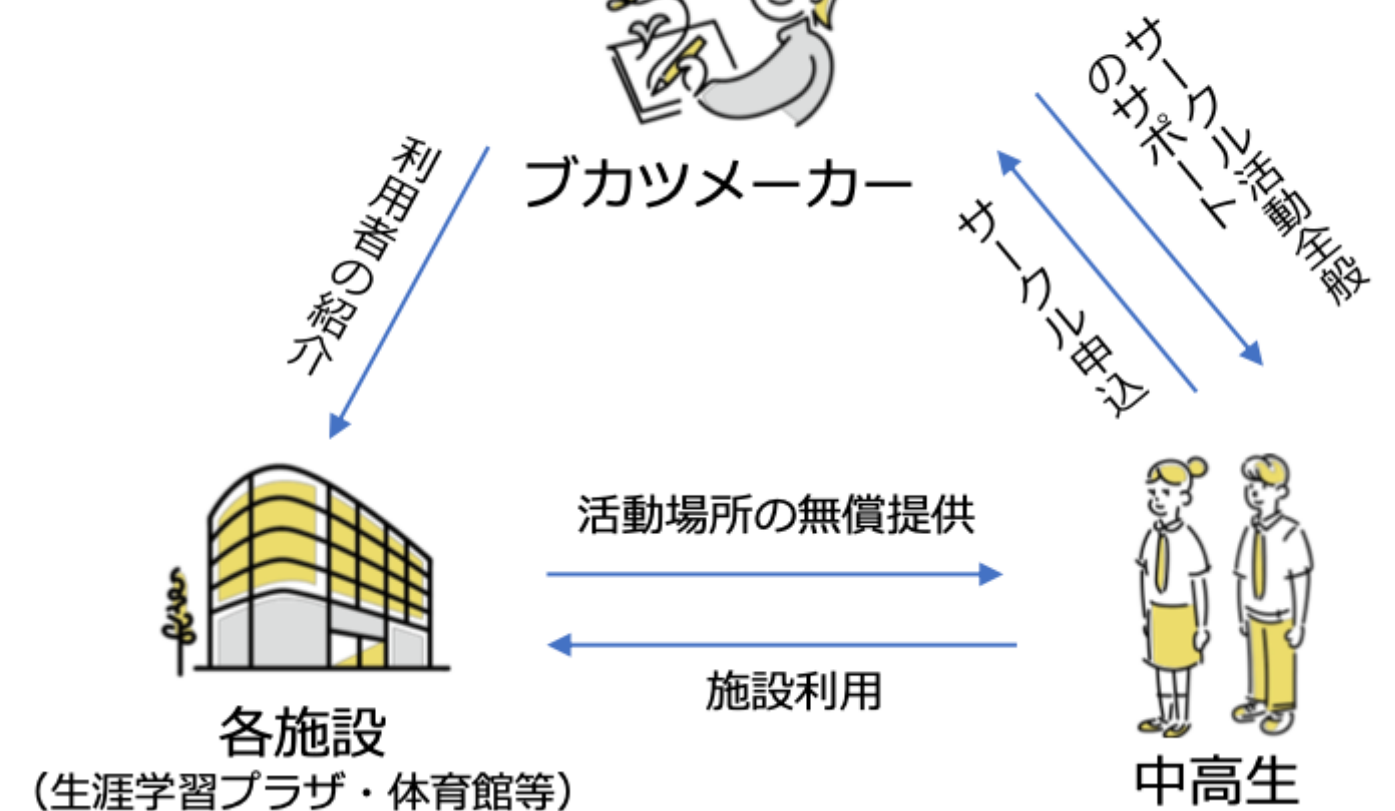
vision

全ての若者に公平な活動経験を

ブカツメーカー
の取り組みへ



実現したいモデル



校則に納得がしたい！

今までの流れ

■理不尽な指導・校則に対する不満
自分のしたい髪形ができない。先生（公務員）やスーツを着た会社員の大人が、、やっているようなツーブロックなどが、禁じられている校則に疑問を持つ。



私たちが校則に納得するために

1. 生徒が意見の言える場を設ける（しっかりと学校側が回答する）
2. HPに校則をすべて記載
3. HPに風紀検査の指導方法を記載
4. ガイドラインを策定
を提案していきます！

アンケート実施 合計約250件

- ・自分の学校の校則に満足している中高生 **22.8%**
- ・校則の質問をした時に納得できる説明をしてくれた割合 **17.2%**

個人プロジェクト紹介⑤ 中学3年生

こんにちは！私達は飛色といろです！

私達はこれらの活動からポイ捨てをする人をなくす活動しています。

4年
公園に落ちているゴミに腹が立ちゴミ拾いを始める。

5年
クラスが分かれてしまいゴミ拾いをやめてしまう。

6年
再び同じクラスになり、公園で大量のごみを発見本格的に活動開始

市長発表準備では、イベントで得た課題を踏まえ、早めに準備が開始できた！

中1
サマセミに参加、前回の失敗を踏まえて少し良くなった！

しっかり準備できた！みんな楽しんでくれた！

プレゼン資料を作り生涯学習プラザに行き、相談、イベントを主催する機会をもらう。

「みんなのホームルーム」に参加色々な人と関わり、交流が多くなる。

時間内により多くゴミを集めたチームが勝ち

イベント「西武庫公園は宝島」失敗が多く、課題が出来た。

Up to youに参加色々な活動をしている人と出会い影響受け活動の楽しさを知る。

スケボーチームASKの活動



スケートボードチームASK
(AmagasakiSkateboardKindness)

- 尼崎に常設のスケートパークを作る
- スケートボード・ストリートカルチャーのイメージを変える。

スケートボードチームASK



+ UP TO YOU! 0期で
政策提言



+ 市幹部と徳島視察



+ 具体的な設置場所を提案

スケートボードチームASK



+ 高校生・大学生で
NPO法人設立



+ 社会実験の提案



+ 特設のスケートパーク
設置



NPO法人ASKについて

2021年3月に中高校生5人が集まって結成したチーム（当時:任意団体）

**目標：「尼崎市に常設のスケートパークをつくる」
「スケートボードのイメージを変える」**



**スケボーをする人もしない人も
住みやすいまちをつくる**

2022年7月NPO法人格を取得。10月には尼崎市記念公園の一部に特設スケートパーク場を設置し、社会実験を行う。

2023年1月 現在は13名の高校生・大学生・社会人で運営をしている。